

# 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜市立岐阜商業高等学校 学校番号 62

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 生徒の個性に応じた教育の展開を図り、将来を展望した魅力ある学校づくりに努める。 (2) 「自彊不息」の校訓のもと、「生きる力」を身に付けた生徒の育成に努める。		
2 評価する領域・分野	◇ 教務部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業や選択授業、少人数授業で学習することが理解につながっているという回答は、保護者で90、4%、生徒も89、1%と良い評価を得ている。</li> <li>授業の教え方についても、保護者85%、生徒から82%以上の良い評価を得ているが、さらなる授業改善に努めていく。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 生徒の実態を踏まえ、一人一人に具体的な目標を持たせるとともに、生徒の思考過程や自己表現活動を大切に、より良い学習習慣を身に付ける。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員研修会の実施</li> <li>生徒による授業評価の充実と効果的な利用</li> <li>「わかる授業、楽しい授業」の追求</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 研究授業・公開授業の実施 (2) コース選択、選択科目の内容説明の徹底	(1) 研究授業・公開授業の実践 (2) 生徒、保護者への説明会の実施		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 生徒が積極的に授業に参加する。「楽しい授業わかる授業」を目指し、「アクティブ・ラーニング」を取り入れた授業を行う。  (2) HRなどを通し、事前にコースの教育課程や選択科目を説明し、学年全体に周知する。また、コース選択は保護者にも説明会を実施し、理解を深めていく。	(1) 従来の研究授業に加え、公開授業で「アクティブ・ラーニング」がどのように工夫され実践されているか。  (2) 説明会当日だけではなく、早い段階から、HRや懇談等を通して、説明がなされているか。	A (B) C D  A (B) C D	
11 成果・課題	<p>○学校支援訪問で助言を頂いた「アクティブ・ラーニング」の研究として、教科の枠を超え、教員の経験年数も様々な4人を1グループとして公開授業の実施をしている。</p> <p>○コース選択は1年生の学年団の協力で均等なクラス編成が行うことができた。また、新3年生の科目選択も、科目によって人数にアンバランスもあったが、将来の進路を見据えた選択をさせることができた。</p> <p>▲例年新2年生の経営管理科の総合コミュニケーションコースのグローバル系の選択希望者が少ないため、本年度は説明会を増やし実施したが、選択する生徒は増えなかった。</p>		総合評価  A (B) C D
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究授業や公開授業の実施で「アクティブ・ラーニング」の指導方法を研修することができた。来年度以降も研修を継続し、教員の授業スキルアップにつなげていく。</li> <li>経営管理科のコース選択で、進路指導部および中国語関連担当者と連携して、今以上に進路意識を明確にさせ、指導していく必要がある。</li> </ul>			

2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ指導やマナー指導及び交通事故防止などの安全指導について、生徒と保護者から昨年並みの肯定的な評価を得た。しかし、交通事故防止や自転車運転マナー、身だしなみ等まだまだ指導が必要である。</li> <li>・「いじめや差別を許さず、厳しく対応している」の項目では、保護者からは昨年以上の肯定的な評価を得た。生徒は昨年並みであり、今後いじめのない学校目指して取り組みたい。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基本的な生活習慣（挨拶・言葉遣い・身だしなみ）の確立 ◇規範意識の育成 ◇交通事故防止の指導 ◇携帯電話使用マナー及び情報モラルの向上		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に全職員による全校一斉の身だしなみ検査の実施</li> <li>・毎日、登校時の挨拶指導・身だしなみ指導を生徒指導部員中心に全職員で分担しての実施</li> <li>・年4回、交通安全校外指導を生徒指導部員で分担しての実施</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 身だしなみ検査、登校時挨拶・身だしなみ指導 (2) 岐阜中警察署による薬物乱用防止講話 (3) 岐阜中警察署による自転車安全運転講習会の実施 (4) 全校集会時等における情報モラルなどについての訴え	(1) 身だしなみ検査の実施及び生徒に対して普段の声かけ (2) 講話を聴いた生徒の感想文及び迷惑調査の結果 (3) 交通事故調査及び被害届の提出状況 (4) 県教委ネットパトロールからの報告及び生徒からの被害届の提出状況		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ検査は特に頭髪、スカートを短くしていないか否かを重点項目として取り組み、毎朝、生徒指導部員を中心に全職員で分担し、登校時の挨拶・身だしなみ指導を実施した。</li> <li>・問題を未然に防ぐため学年集会・緊急全校集会を実施した。</li> <li>・岐阜中警察署による自転車安全運転講習会を実施した。</li> <li>・全校集会時等等など全校生徒に向け、情報モラルなどについて生徒に話した。</li> </ul>	①職員が共通理解のもと、足並みを揃えた取り組み ②迷惑調査（いじめを含む）から得られた迷惑行為の改善 ③交通事故件数及び盗難等被害届の減少 ④情報モラルの意識の高揚	A (B) C D (A) B C D A B (C) D (A) B C D	
11 成果課題	○遅刻が年々減少している。 ○情報モラルに関する問題行動が減少した。 ○今後もいじめのない学校を目指し取り組む。 ・▲自転車による交通事故について昨年度より増加傾向にある。 ・▲身だしなみについて、頭髪やスカート丈、靴下やカーディガンなど、職員の共通理解の徹底。		
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身だしなみ指導については、職員の共通理解や足並みが揃えられるよう、職員朝会・職員会議などで訴えていきたい。</li> <li>・いじめの根絶を目指して職員がアンテナを高く持ち、生徒の情報を素早く収集し、早期発見し適切な対応をしていきたい。</li> </ul>		
	総合評価 A (B) C D		

2 評価する領域・分野	◇ 進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路情報の提供について、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合は、生徒・保護者共に8割以上であるが、「よくあてはまる」と答えた保護者の割合は「ややあてはまる」と答えた割合を下回っている。</li> <li>・生徒の進路希望に沿った指導をすることについても、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた割合は、生徒・保護者共に8割以上であるが、「よくあてはまる」と答えた保護者の割合は、「ややあてはまる」と答えた割合を下回っている。</li> <li>・上記2点について、昨年度に比べ、生徒の評価は上がっているが、保護者の評価はまだ上がっていない。活動を継続する必要がある。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 3年生の生徒全員の進路実現	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の進路指導委員会</li> <li>・3年学年団と進路指導部の情報共有と協力体制</li> </ul>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 企業訪問や企業との懇談会への参加 (2) 大学入試説明会への参加	(1) 3年生全員の進路先決定 (2) 生徒たちの自分の進路に対する満足度	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導部員と3年学年団、学校長による企業訪問を行った。</li> <li>・進路指導部員と3年学年団で大学入試説明会に参加し、大学との連携をとった。</li> <li>・将来を見据えたインターンシップの実施。</li> </ul>	①就職者内定 ②進学者合格 ③低学年(1・2年)からの継続的指導	(A) B C D (A) B C D A (B) C D
11 成果・課題	○3年生の生徒に関しては、概ね順調に進路が決まった。それぞれ自分の力を発揮して進路を決めることができた。 ○進路指導部と3年学年団が協力して生徒の進路実現に向けて取り組むことができた。 ▲1・2年生に対する指導のあり方をもっと具体的に考え、実行する必要があると思われる。	
12	来年度に向けての改善方策案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力上位層の進学希望者に対して、客観的な学力の把握とその伸長に向けた取り組みを早期から始める。今年度の1年生に対する指導では、部活動と学習の両立がうまくいかなかったと思われる。</li> <li>・3年学年団の先生方に対して、もっと分かりやすい説明をする。</li> <li>・本校としての面接の指導基準を作成する。</li> </ul>	

2 評価する領域・分野	◇ 特別活動部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事や部活動に対して肯定的に捉えている生徒・保護者の割合は昨年度同様9割程度と非常に高い。ただ、生徒対象アンケートの部活動について「適切な管理体制の下に活発に行われている」と感じている生徒の割合が73.3%と昨年度より20ポイントも減少している。これは項目の内容が若干変わり、「わからない」と答えた生徒が増加したためと見られる。また、生徒の76.9%、保護者の80.2%がボランティア活動の機会が提供されていると感じており、昨年度とほぼ変わらないが、今後も更に発展、継続させたい。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 生徒の自主性や創造力を発揮できる活動の場の拡大を目指す。</li> <li>(2) 部活動の更なる活性化を図る。</li> <li>(3) 生徒の実態を把握し、生徒会活動を充実させる。</li> <li>(4) ボランティア活動・地域行事について、全校体制で積極的に参加する。</li> </ul>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・特別活動部、各種委員会、生徒会執行部、各部活動、ホームルーム	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 重要議題について生徒議会を開催し、全校生徒の問題意識や帰属意識の向上を図る。</li> <li>(2) 1年生対象の部活動紹介を工夫して各部の魅力を伝え、更なる部活動の活性化をはかる。</li> <li>(3) 執行部による学校行事の検討を行う。</li> <li>(4) ボランティア活動に対しての啓発活動と地域行事への参加を生徒全体に呼びかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 学校行事・生徒会行事における生徒の参加の仕方、執行部会・各種専門委員会の年間反省</li> <li>(2) 各部活動の活動状況及び実績</li> <li>(3) 行事後のアンケート(生徒・教員)</li> <li>(4) ボランティア活動・地域行事への取り組み状況</li> </ul>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒議会を開催するような重要な検討事項が発案できず、議会を開催できなかった。</li> <li>部活動に関しては職員の意見を聞き、次年度への改善点を部顧問会議で決定した。</li> <li>定期的に執行部会を行い、当面の活動を理解したり、内容を検討したりして積極的に活動できた。</li> <li>芸術鑑賞について本年度は古典芸能を鑑賞した。サランカホールでの実施で移動が心配であったが、充実したものとなった。</li> <li>地域からのボランティア活動にその意義を理解し積極的に参加した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒が自主性・創造性を発揮できる場面があり、満足感を得ることが出来る。</li> <li>②部活動が活性化し、より多くの生徒が部活動を通して生き生きと活動する姿が見られる。</li> <li>③学校行事や委員会活動に対しての意識が高まり、生徒から新たな要望が出てくるようになる。</li> <li>④地域の行事に積極的に参加する姿が見られるようになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> <li>A (B) C D</li> <li>(A) B C D</li> </ul>
11 成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や委員会活動は、現行の内容で安定して実施できた。生徒会執行部と各種委員会にて活動内容のより一層の拡大を目指すと共に、全校生徒がより積極的に参加(実施)できる方法を更なる検討課題としていきたい。</li> <li>○論田川清掃をはじめとする地域貢献、東日本などの被災地支援のための募金活動、ベルマーク運動の取り組みが計画的に行えた。また、MOA美術館作品展へのボランティア活動参加など新たな活動も行えた。</li> <li>▲市岐商ブランドの中核を担う「部活動」にも、様々な問題が発生している。生徒の実態を把握し、より良い活動となるよう部顧問会議等で検討したが、全職員が一丸となって更に改善を進める必要がある。</li> </ul>	
12 来年度に向けての改善方策案		
<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒自らが課題を見つけて自分たちの力で実践し、また新たな活動を創造していくことは大変難しいことであるが、我々教師が生徒へさらに働き掛け、少しずつでも前進させたい。</li> <li>部活動に関して、従来の考え方に捉われず、現代のニーズに応じた活動形態を検討し、実行したい。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇ 保健厚生部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に関する指導は、生徒・保護者とも8割強の高い数値で評価されている。</li> <li>地震や台風などの対応についても、生徒・保護者の周知が進み、約9割の生徒・保護者からの高評価が得られた。</li> <li>清掃に関しては7割弱の生徒が行き届いていると評価したが、この数値が低く、更に取り組みが必要と感じている。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1) 健康や安全に関する基本的な知識や習慣を身につけさせ、生涯を通じて健康で安全な生活を営むことができる態度や能力を育てる。</p> <p>(2) 緊急時や災害時に適切な行動が取れる態度を育成する。</p> <p>(3) 健康教育の推進に務め、安全に留意し危険防止に努める態度を育成し、心身共にバランスのとれた人間の育成を目指す。</p>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>危機管理マニュアルに基づいた全職員による組織体制</li> <li>保健主事、養護教諭、クラス担任、保護者の連携体制</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保健主事、養護教諭、担任、学年主任の連携強化</li> <li>(2) 危機管理マニュアルの周知徹底、職員研修会の実施</li> <li>(3) 委員会活動の活性化</li> <li>(4) 全職員・生徒による命を守る訓練(年3回実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 保健室の利用者の数や内容</li> <li>(2) 非常変災時に対する学校の対応と生徒および教員の行動について周知徹底の向上</li> <li>(3) 保健委員会・美化委員会の日常的な活動と、啓発活動の活性化</li> <li>(4) 避難完了時間の短縮(目標3分以内)</li> </ul>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>悩みを抱えている生徒に対しては教師側も連携をとり対処する。保健室の利用で欠課となる者は減少し概ね良好であった。</li> <li>大雨暴風等の警報発令時に、生徒の帰着確認を行う機会を設け、訓練として実施した。</li> <li>毎月発行の定期保健だよりに加えて、予防や注意喚起など、適時に実施する。また、校内放送や集会等で委員から生徒に直接呼び掛ける。</li> <li>命を守る訓練を年間3回実施し防災意識の向上を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己の健康に関心があり、行動が伴っているか。健康診断の受診勧告に対する受診率。</li> <li>②帰着確認のできた割合。</li> <li>③問題等を未然に防ぐため、良いタイミングと内容で発行出来ているか。</li> <li>④命を守る訓練を体験して、防災意識が高まったか。</li> </ul>	<p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>A (B) C D</p>	
11 成果・課題	<p>○校内における保健・安全に係わる業務は、学校安全保健法などにより実施しなければならぬ取り組みが多いが、滞りなく実施できたと思います。</p> <p>○校内の環境整備は校務員の多大な尽力もあり向上した。校内安全点検の回数を増やしたことで、修繕や安全性の向上のための物品の購入などもスムーズに行えた。美化についてはもう一つレベルを上げていきたい。</p> <p>▲命を守る訓練は年間3回に増やし防災意識の向上を図ったが、実施方法を改善することにより、効果を上げることが可能である。帰着報告の訓練は保護者との連携も進み確認できた割合が向上した。</p>		<p>総合評価</p> <p>A (B) C D</p>
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の環境整備と美化を向上させるために、啓発的な活動を通して日常の清掃活動のレベルを向上させたい。</li> <li>命を守る訓練の実施方法を模索し、効果的な訓練の実施を検討していきたい。</li> </ul>			

2 評価する領域・分野	◇ 渉外部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育方針、指導内容等について、概ね伝わっており、理解されている。</li> <li>・学校からの連絡文書等について、少数の保護者の中に連絡文書が子どもから届いていないというケースが見られた。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇市岐商デパートを企画・運営することで、保護者との連携を図る。 ◇総会や研修会を実施することで、PTA会員相互の連携を図る。 ◇生徒の健全な育成を重視し、保護者との連携を密に行う。		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・PTA常任委員会（事業、広報、支部、部活動振興会）の定期的開催。		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1)市岐商デパート飲食・謝恩品部門を開催する。 (2)PTA総会、研修会等を実施する。 (3)保護者へメール登録依頼・配信を行い、情報を提供する。	(1)市岐商デパート飲食・謝恩品部門での売り上げ実績 (2)PTA総会、各種研修会の参加人数 (3)保護者の登録件数と学校からの配信回数		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市岐商デパートで飲食、謝恩品部門を開催した。</li> <li>・PTA総会、支部懇談会、PTA研修は昨年度より年末の「綱引き大会」において「とん汁の提供」を行った。</li> <li>・メール登録を呼び掛けると共に、学校から種々の情報を配信した。</li> </ul>	①市岐商デパート飲食部門、謝恩品部門での保護者の協力と参加は得られたか。 ②学校・保護者との連携が図れたか。 ③全校生徒の保護者が登録してもらえたか。	(A) B C D (A) B C D A (B) C D	
11 成果課題	○市岐商デパートにおいて、飲食部門では各店舗の販売内容の変更や販売数を増やし、完売することができた。謝恩品部門についても、全商品を完売することができた。数多くの保護者の参加と協力を得ることができ成功裏に終わった。 ○三者懇談において、保護者アンケートを実施し、親子通信を発行することができた。 ○PTA支部役員選出において、スムーズに役員選出が決まった。 ▲市岐商デパートの謝恩品の回収について、年々出品数が減少傾向にある状況の中、謝恩品回収並びに販売方法について検討する必要がある。		総合評価 (A) B C D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAそして学校からの連絡としてメール配信をさらに活用し、生徒の学校生活が把握できるよう連絡内容の精選を図り、さらに保護者の登録者数を増やす方向へ周知していく。</li> <li>・市岐商デパートPTAの2部門に関して名称の変更を行い、謝恩品回収については、本校PTAだけではなく、地域住民の方々にも情報を発信し（ポスターや町内会回覧）ご協力をいただく方向を進めていきたい。</li> <li>・他の分掌とも情報を共有し、HPと共に情報伝達の媒体の一つとしてとして、定期的に保護者へメール配信を実施する。</li> <li>・PTA支部役員選出については、各支部ごとに無理のない方法で行い、保護者の協力・参加しやすいよう企画・運営を行う。</li> <li>・2年後に50周年記念事業を迎えるにあたり、保護者に対しPTA（渉外部も含む）の方向性を理解・周知していく。</li> </ul>		

2 評価する領域・分野	◇ 図書・視聴覚部				
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気軽に利用でき、読みたい本があり、調べたいことがわかる図書館を目指す。</li> <li>・生徒や地域の方々のリクエスト本やそのニーズに応える努力をする。</li> <li>・注目されている、人気のある本に目を向け、「買わなくても借りればいい」、「ぜひ、読んでみたい」という気にさせることができる図書館にする。</li> </ul>				
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇言語活動の充実を目指す。調べ学習に対応できるよう、教科担任との連携した選書や地域図書館との連携を目指す。 ◇貸出数、利用数の増加を目指し、年4回の朝読書を定着させる。 ◇地域との関係を深める。(win書庫の更新) ◇視聴覚機器を用いる授業での積極的な利用を促す。				
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図書委員会の活動(図書委員一人ひとりの自覚と自主的かつ活発な活動)</li> <li>・視聴覚委員会との連携</li> <li>・地域との連携(利用しやすい雰囲気づくりの再認識)</li> </ul>				
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標				
(1)各教科の調べ学習に沿った選書を充実させる。 (2)本の入れ替えを積極的に行い、利用しやすい図書館を目指し、生徒の興味、関心を喚起する。 (3)「読み聞かせ隊」、本校図書館の開放や地域行事に参加する。 (4)視聴覚機器を利用した授業の推進し、TV録画などの予約、視聴覚機器の管理を行う。	(1)生徒の貸出数、利用者数の確認 (2)リクエストに対する本の積極的な入れ替え (3)前年度の反省を生かした読み聞かせに参加していた方々と担当した図書委員(今年度、一般生徒の参加者は0)へのアンケート (4)視聴覚教材の一覧表				
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科のサポート並びに人間育成、進路実現のためにもリクエストに極力応えることができた。</li> <li>・積極的な選書とともに生徒の興味、関心を促し「開かれた図書館」を目指した。</li> <li>・「読み聞かせ隊」の実施と本校図書館を地域に開放した。</li> <li>・視聴覚機器を利用した授業の推進をし、TV録画などの予約や視聴覚機器の管理を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科に細かく調査を実施することができた。</li> <li>・貸出数と利用数の確認を怠らない。</li> <li>・参加者と担当生徒にアンケートを実施する。地域貸出数、利用数の確認も怠らないようにする。</li> <li>・授業におけるTVの利用頻度の確認と職員からの要望に応える。</li> </ul>	A	B	C	D
		A	B	C	D
		A	B	C	D
		A	B	C	D
11 成果・課題	○朝読書でのプレゼンテーション能力の向上を目指して生徒に発表の機会を与える取り組みは、各学年で効果も見られ、定着してきた。そして、昨年度よりも、各教室用TVを利用したり、DVDやパソコンを利用した授業が、科目を問わずに展開されるようになった。 ○「読み聞かせ」は図書委員を中心として実施することができ、地域の方々に本校の図書館を知ってもらいよい機会となり、交流をより深めることができた。 ▲朝読書やテスト勉強等をきっかけに年間を通して、朝、昼休み、放課後に図書館を利用する生徒が増えたが、その反面、書籍を借りる生徒があまり増えていない。例年どおり、職員への貸し出しは多い。 ▲生徒からの選書リクエストには対応することができたが、教員からの授業に関連した選書については時間がかかった。また、相変わらず生徒の返却率が芳しくなかったが、その反面、督促状の効果が見られたクラスが多かった。 ▲win書庫の不具合により資料検索の手段が限られ、生徒の要望に応えられない場面が見られた。				
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に生徒の要望に応え、教科との連携を図り、『開かれた図書館』となるよう利用者数とともに貸出数の増加にも努めていきたい。</li> <li>・地域の方々により一層利用していただくためにも情報発信を積極的に実施していきたい。</li> </ul>				
		A	B	C	D

2	評価する領域・分野	◇商業教育部		
3	現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の86.5%、保護者の98.1%が「より高度な資格取得の達成に努めている。」という回答。今後も進路選択に向け有効となる資格取得の指導の充実を図る。</li> <li>生徒の92.6%が「本校に入学できて良かったと思う」保護者の94.0%が「お子様はよるこんで学校に行っている。」という回答。思いやりの心を育てていきたい。</li> </ul>		
4	今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人がもつ個性や能力の伸長 主体的・対話的で深い学びの実現を図るとともに、生徒一人一人が持つ個性や能力を最大限伸ばす授業を実践する。 ◇職業資格取得のための指導 生徒自らが自分に適したキャリアを意識し、目的意識をもって各種検定の合格に向けて取り組むよう指導を行う。 ◇ビジネスに対する望ましい心構えと地域貢献 将来の職業人として必要な倫理観やビジネスマナーを身に付けさせるとともに豊かなコミュニケーション能力を育成し、市民講座等を通じて地域貢献を行う。		
5	重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>商業の基礎科目の授業改善及び、各学科コースにそれぞれの専門分野の知識を有する教員を配置し遅進者に対して補習等を実施する。</li> <li>各科目責任者を中心とした授業研究を行い指導内容の充実を図る。</li> <li>市民講座の計画立案及び実施する担当者と生徒を調整する。</li> </ul>		
6	目標の達成に必要な具体的な取組		7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
	(1) 商業の基礎科目の研究授業を行い、授業改善をし、生徒の興味関心を喚起し、自主的意欲的に授業に取り組む姿勢を育成する。 (2) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、生徒が学んだ知識を基に自ら進んで学習する能力を高める工夫をし自信を付けさせる。 (3) 市民のニーズに合った講座を計画し実施する。講座を実施する中で生徒に講師やアシスタントをさせ、受講者とコミュニケーションを図る。		(1) 研究授業記録表、公開授業により判断する。 (2) 生徒の授業評価表、及び高度な資格の取得状況と全商検定1級の合格状況、基礎科目(簿記2級)の取得状況により判断する。 (3) 受講者からのアンケート結果により判断する。	
8	取組状況・実践内容等		9 評価視点	10 評価
	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習指導評価で、82.8%が授業等を通じて一人一人の能力に応じた指導を行っているという回答している。授業研究を行い双方向の授業に心がけるよう努めた。</li> <li>全商簿記検定前の3日間は、特別編成時間割を組み、集中的に学習を行う時間とし学習進度に応じてきめ細やかな指導を実践した。</li> <li>難易度が上がった日商簿記検定2級取得に向け、受験者のために外部講師を招聘した講座の回数を5月1回、10月2回実施した。</li> <li>全ての商業系部活動が市民講座を実施することができ、生徒が受講者に教える場面をつくることができた。</li> </ul>		①生徒からの授業評価結果 ②検定の合格率及び資格の取得率 ③受講者の満足度	A (B) C D A (B) C D (A) B C D
11	成果・課題	○3年前に実施した1年次における全商簿記2級取得指導が4年目となり指導方法が定着した。 ○来年度の教育課程で1年次と2年次において各1単位の増単となった。 ○商業系の部活動の全てが市民講座を実施し、施設設備を有効利用した。また生徒が講師を務めることにより、コミュニケーション能力の向上にもつながった。 ○各科や各コースで学んだ成果物を全校生徒に発表する課題研究発表会を実施した。 ▲一方的な授業ではなく、授業中の発問やグループ学習の中で理解させる授業に心がけているが、不十分などところがあり、授業評価で指摘事項となった。商業部会でも議題として取り上げ、主体的・対話的で深い学びができる授業を実施していく。		
12	来年度に向けての改善方策案			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>より高度な資格取得に挑戦するための土台(各コースの全商検定合格)をつくる。</li> <li>商業科目で学んだ内容において調査・研究し、学校全体で発表できる機会をつくる。</li> <li>商業教育部として、社会に貢献できる人材育成(挨拶・礼儀・マナー)をする。</li> <li>就職、進学への選択肢が広げられるように個別指導にも対応できる基盤をつくる。</li> </ul>			

2 評価する領域・分野	◇ デパート課	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「市岐商デパート」は、生徒・保護者・教師が一体となって取り組む行事であると、ほぼ100%の方が答えている。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1)「市岐商デパート」を通じて、岐阜の産業や特産品に着目し、岐阜の活性化や学校のPRに努める。また個々においてビジネスマナーの向上を目指す。 (2)商業教育の発表の場として、商業で学んだ知識や技術を活かし、仕入・販売・経理・経営の各業務を実践遂行する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・2部7課の組織体制で、生徒中心に活動を行っている。(取締役会) ・課を代表する教職員による委員会を実施している。(デパート委員会)	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 県産品を用いた商品開発 (2) 市場調査や取引先の開拓 (3) 東日本大震災への復興支援	(1) 地元企業との連携とお客様に喜ばれる商品開発 (2) アンケート結果による新たな取扱商品の開拓 (3) 岩手県立宮古商業高等学校を通じての復興支援	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・昨年に引き続き地元洋菓子店と連携し、岐阜市産のいちご、ブルーベリーやいちじくを使用した新製品や東日本大震災への復興支援として岩手県産のヨーグルトを使用した新製品を、また、和菓子店とは県産品のはちみつなどを用いた商品を共同開発する。 ・取引業者および本校職員等と連携を図り取扱商品やイベントのさらなる充実を目指す。  ・東日本大震災への復興支援として「東北特産品」を取り扱った。売上利益・義援金など宮古商業高校を通じて宮古市に寄付した。	①洋菓子店とは地元産のいちご、ブルーベリー、いちじくや岩手県産のヨーグルト、和菓子店とは県産品の蜂蜜を生地に練り込み、きな粉や黒蜜を餡に入れたどらやきを開発し完売した。 ②本校職員や生徒の人脈をたどり、新たなイベントとしてサランカ少年少女合唱団の合唱を実施することができた。 ③東北特産品の販売やPRを行った。	A (B) C D  A (B) C D  A (B) C D
11 成果・課題	総合評価	
○昨年度までの反省を生かし、駐車場所を増やし交通誘導員を配置して、渋滞緩和を図った。 ○岐阜市産のいちご、ブルーベリーやいちじく、被災地岩手県のヨーグルトを使用した商品の共同開発が、地元ケーキ店と和菓子店の協力により進めることができた。  ▲今年度の反省を改善して、来年度に向けて早めの取り組みを行う必要がある。	A (B) C D	
12 来年度に向けての改善方策案		
・36回に向けて、仕入業者との提携のあり方や次年度取扱商品などについて検討する。 ・来場者を増加させるためのPR方法を検討する。		

## II 学校関係者評価

実施年月日：平成30年1月30日

### 【意見・要望・評価等】

- ・息子は在籍していた昨年度は情報処理科発表会を見ることができなかったが、今年見ることができよかった。身近なテーマを選び分かり易く発表していた。中でもゲーム作品を見て、プログラミングの勉強をすればあのような作品が作れ素晴らしい技術が身に付くことが理解できた。
- ・資格取得に力を入れることは大切である。高度な資格取得を目指して、専門学校や大学の連携をしているという報告は素晴らしいと思った。
- ・徐々によくなっている学校の様子を見ると先生方の手をかけている苦勞の跡が感じ取れる。交通事故防止や快活なあいさつができることに対して先生方の取り組む姿勢が生徒に響いていると思う。
- ・交通事故が増加しているといことですが、交通マナーについては近所の小中学生を見ていても、良い子もいればそうでない子もいる。先生方も積極的に声を掛けるが中々指導できていない。本校以外での高校でも同じ状況ではないかと思う。教員の呼びかけだけでは限界があり、各家庭の協力を求めることが必要ではないか。
- ・大学にも近隣住民から交通マナーに対するクレームがある。その対策として学生にボランティアでの交通マナー向上のための啓発活動に取り組みさせたところ、危険に対する気づきがマナー向上に繋がった。一つの有効な手法ではないか。
- ・保護者として市岐商デパートを三年間経験したが、毎年同じような内容であった。反省をもとに中身の濃い市岐商デパートにすることはとても良いことだと思う。積極的に改革してほしい。
- ・市岐商デパートは生徒のコミュニケーション能力を育成する良い機会になっている。